

静岡県の誇り日本一の頂へ。静岡県側から挑む「富士登山」！ -最短・絶景・自分らしさ。三つのルートが誘う、世界文化遺産・富士山の神髄-

2013年に世界文化遺産に登録された富士山は、単なる登山対象ではなく、古くからの「信仰の対象」であり「芸術の源泉」としての深遠な魅力を備えています。2026年の夏、静岡県側の登山口から、自分自身の足で日本一の頂を目指す「特別な夏休み」を計画してみませんか。

「信仰の対象」と「芸術の源泉」

静岡県側には、富士山を神体とする「富士山本宮浅間大社」や、平安時代からの修験の歴史を刻む「村山口登山道」など、深い精神性が息づいています。単なるスポーツとしての登山ではなく、古の人々が白装束で頂を目指した歴史に思いを馳せながら歩けるのは、文化遺産である富士登山ならではの贅沢です。

個性豊かな静岡県側の3ルート

静岡県側には、登山者の目的や体力に合わせて選べる3つのルートがあります。

富士宮ルート

富士山全ルート中で最も高い標高2,400mからスタートする最短コースです。眼下に広がる青い駿河湾や伊豆半島の絶景を背に、効率よく山頂を目指せます。日本最高地点「剣ヶ峰」に最も近いのもこのルートです。

須走ルート

豊かな緑の樹林帯から始まり、森林限界を超えると一気に眺望が開けます。2026年は7月1日に開通。一足早くシーズンを迎えられるます。

御殿場ルート

標高差約2,300mを誇る、静かで広大な火山砂礫地帯を行く健脚向けルートです。下山時の「大砂走り」では、ダイナミックな景色の中を一気に駆け下りる爽快感を味わえます。



富士山御殿場口新五合目（写真提供:静岡県観光協会）

富士宮口から入り、宝永火口を経由して御殿場ルートへ抜ける「プリンスルート」も、各ルートの「いいところ取り」ができるコースとして人気です。

登山ルール

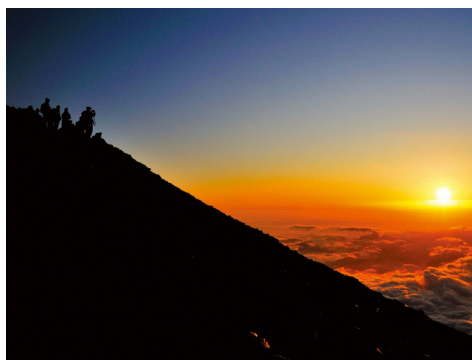
安全確保と混雑緩和のため、ルールが導入されています。

入山料

全ルート共通で、1人1回4,000円の入山料が必要です。

入山規制

午後2時から翌午前3時までの入山には、山小屋の宿泊予約が必須です。これは、高山病のリスクが高い「弾丸登山」を防ぐための措置です。



富士登山 御来光（写真提供:静岡県観光協会）

静岡県公式アプリ「静岡県FUJI NAVI」

静岡県側3ルートでは、スマートフォンアプリでの事前学習と登録が必要です。事前にルールやマナーを学ぶことで、当日の手続きをスムーズに進められます。

静岡県FUJI NAVI
詳細はこちら▶



マイカー規制

富士宮口（富士山スカイライン）と須走口（ふじあざみライン）では、渋滞緩和、富士山来訪者の安全と快適性の確保や富士山の自然環境の保全のため、開山期間中に一般車両の規制が行われます。

自家用車は「水ヶ塚公園」や「須走多用途広場」の駐車場に停め、そこからシャトルバスやタクシーで五合目を目指すスタイルが基本です。

富士登山に関する
詳細はこちら▶



【静岡県誕生150周年】ふるさとの魅力を次世代へ

本県出身の松村北斗さん（SixTONES）が 「静岡県誕生150周年記念アンバサダー」に就任

静岡県は2026年、誕生150周年という大きな節目を迎えました。明治9年（1876年）8月21日、東部の足柄県、中部の静岡県、西部の浜松県が一つになり、現在の静岡県が形作られました。

東部・中部・西部・伊豆の各地域が持つ多様な歴史や豊かな自然、多彩な食文化が織りなす本県は、長い年月をかけてその魅力を磨き続けてきました。

この記念すべき年を盛り上げるべく、静岡県出身の松村北斗さんが「静岡県誕生150周年記念アンバサダー」に就任しました。

委嘱式

5月の委嘱式にて、鈴木知事は「大変人気があり、発信力のある松村さんに、静岡県の魅力を大いに発信していただきたい。県民の皆さんの静岡県に対する誇りや愛着も高まると思うので、期待しています」と語りました。

松村さんは自身の活動を振り返り、次のように語りました。「静岡にしながら東京で活動して、それが全国に広がっていく感覚は、ずっと静岡が支えてくれていたものなので。改めて150周年という歴史の上で支えてもらっていたんだなと感じますし、少しでも尽力できることがあると思うと、本当に名誉なことですし、心躍るチャンスだなと思います。」

松村さんの原風景は、茶畑の向こうに雄大な大井川が広がる景色。「いろんな土地へ行ったけれど、あの景色と同じ感動は他にはなかなかなく、ここにしかない感動」と話す姿からも、静岡県への深い愛着が伝わりました。



150年目の「県民の日」

現在、県では「静岡茶ブランディングプロジェクト」をはじめ、地域の資源を磨き上げ、新たな価値を創造する取り組みを推進しています。

離れて暮らしていても、静岡は皆様の心の拠り所です。この節目に、改めてふるさとの輝きを見つめ直し、共に150歳を祝いましょう。

静岡県誕生150周年ポータル
サイトはこちら▼▼



ふじさん駿河湾フェリー情報

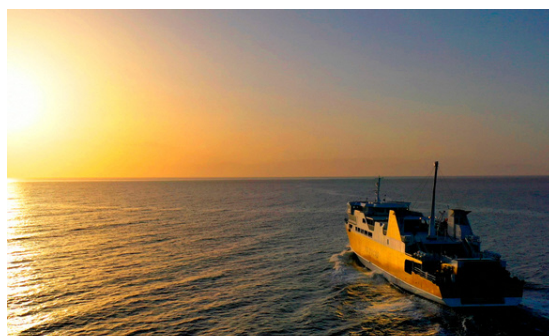
黄金体験を次の世代につなげたい この秋、幻の第4便復活！ クラウドファンディングで想いを形にする

船上からの富士山の眺望は、駿河湾フェリーの唯一無二の価値です。中でも船長の隠れた「推し」は、夕日によって黄金色に輝く駿河湾、フェリー、富士山が奏でる”黄金体験“を楽しめる最終便です。

しかし、駿河湾フェリーは令和7年度の清水港乗り場の移転を契機に一日4便から3便の運航スケジュールとなり、この黄金体験を十分に提供することが難しくなりました。さらに乗船客の減少が長引き、この秋には存廃が議論される状況を迎えています。

クラウドファンディング始まる（9/13まで）

10/3（土）に幻の第4便に挑戦します。15:30頃清水港を出港し、土肥沖から黄金崎を回る特別ルート。限定の返礼品（黄金体験御船印）を用意しているので、ぜひ実現しましょう。今すぐエントリーを！



詳細はこちら▼



編集後記

東京事務所2年目の堤と申します。

当事務所では、首都圏と静岡をつなぐ架け橋として、故郷の魅力を発信しています。プライベートでは、東京の歴史ある庭園や美術館を巡ることが趣味です。

都会の喧騒の中で静寂に触れ、感性を磨く時間は私にとって不可欠なひとときです。

また、「プラチナ大学」というビジネスパーソンを対象としたキャリア講座にも参加し、多様なバックグラウンドを持つ方々と社会課題や地域の未来について深く議論する機会を得ました。この「越境して学ぶ」経験は、今のネットワークづくりにも大きく活かしています。

「東京を知るからこそ、静岡の価値が鮮明に見える」という視点を大切に、行政の枠を超えた広がりをつくり出したいと考えています。



行政連絡班
堤 峻亮